

大阪府退教情報

2024年3月15日

発行第51号

発行者:大阪府退職教職員連絡協議会 代表:林誠子

〒543-0021 大阪市天王寺区東高津町7-11 大阪教組気付

電話 06-6762-7999

3.10 さよなら原発 2024 関西アクション大阪中之島報告

福島原発事故から13年、原発再稼働推進へ政策転換が行われ、能登半島地震が原発重大事故の危険性を改めて示す中での今年の集会でした。700人が参加し、大阪府退教、退女教も30人ちかくが参加して脱原発をアピールしました。

浪江町からの避難者菅野みずえさん、美浜町から松下照幸さんがアピール、青森核燃サイクル阻止一万人訴訟の浅石紘爾さんのメッセージ、被爆二世の増田俊道さんの歌、ゲストは「おしどりマコ・ケン」でした。

浪江避難者の菅野さんは「事故直後、福島の人にはガソリンも売ってくれなかった。味方は無いと思ったが、今日の皆さんの応援に励まされる」と福島原発事故賠償訴訟の話をしました。松下さんは、「再エネや山菜の事業で関電に依存しない地域経済発展に取り組んでいる、関電の使用済み核燃料乾式貯蔵施設建設は詰まった燃料棒を運び出して老朽原発をさらに長く運転するためである、止めさせよう」と話しました。

増田さんのギターと歌は「イマジン」「青空」、優しく力強く響きました。

マコ・ケンさんは政府、マスコミによる情報操作を告発しました。

3.11事故直後3月15日に「電通」が随意契約で政府から受注、マスコミ誘導プログラムを始めた。TOKIOに福島の桃を食べさせたのは電通、「おいしい」とだけ言って、「安全」とは言うなと指導した。

自分たちは会社の吉本から「原発と爆発」は舞台で出すなど言われた。情報操作は今も「電通」「マスコミ」、あらゆるものを使って行われている。万博もオリンピックも同様ですと。

一方、ドイツは、原発を廃止し、今は、放射性廃棄物の監視と他国（ベルギー、スイス）の原発廃止に取り組んでいる、ドイツのリッターチョコレートは「きれいなエネルギーになったからおいしい」と宣伝しているとのこと。福島事故を起こした国とこんなに違うのです。

子どもたちを先頭に、西梅田までデモ行進しました。'（文責：稲岡美奈子）



日本退職者聯合(日退連)
第12回ジェンダー平等のための学習会開催

講演
講師:斎藤正美(富山大府常勤講師社会学)
ジェンダー平等はなぜ後退してきたのか

3月6日午後1時半から東京連合会館ホールに斎藤正美さんは、社会学・フェミニズム・宗教において参加したおよそ100人と、全国の地方右派の研究者だと自己紹介。バックラッシュ時退職者連合、産別退職者組織の仲間をZOOMでから宗教右派への調査を開始した。今安倍政権つなぎ、上記学習会が開催された。府退教からは以降の性・生殖・家族政策についても「制度化男女2名がZOOM参加し、大阪退職者連合からされたバックラッシュ」として検証中である。ら林が参加した。

冒頭主催者あいさつで、森嶋正治ジェンダー平等委員会委員長(日退連副会長)は「日本では歴代首相に女性はゼロ。政治と金・裏金問題と混乱しているが見落としてはいけないのは副總裁の発言だ。“俺たちから見てもこのおばさんやる

るね。美しい方とは言えないが・・・”という発言は権力を握ってきた男性の上から目線。権力中

変えていこう。そのために、連合と連携しながら全ての退職者組織がジェンダー平等推進を方針化して取り組んでほしい。少しずつ前進していることはまちがいない。大きく前進していただくために本日の学習会が力になっていくことを願う」と参加者に訴えた。

運動方針にジェンダー平等推進取り組み明記を
続いてジェンダー平等委員会畠山幸子事務局(日退教神奈川高退教)から退職者連合の五年計画目標(2020~2025)、調査結果などの報告があった。具体的には

①各組織は方針にジェンダー平等推進の取り組みを明記すること②女性役員を選出するよう取り組むこと③中央・地方退連の機関会議への女性参加率を30%とするなど。

その結果として、12産別退職組織と35地方退連が方針を明記していることを明らかにした。

宗教右派の地方ヒアリングで感じたのは、彼らが日頃から地方政治家との付き合いがとても丁寧であると感じたと。1990年代後半の歴史修正主義的反発と2000年代前半の性教育や男女共同参画への反動がどのような関係にあるか。

運動の担い手が共通、運動の思想・信条が共通、保守政治家・右派知識人・右派メディア、草の根運動家などの連携などを挙げた。

こうした運動は「地方から政治を変えよう」と草の根運動を熱心に展開して来た。地方行政の各種委員に就任して、中から自分たちの方向を示すやり方で、日常的には地域での信頼関係を築くやり方であると。私も思い当たることが自治会や公民館活動に関わる中で、何度か経験したことを思い出した。

長 自民党右派の支持母体は、この宗教右派であり、彼らは「性と生殖・家族」に強い関心をもっていることが強調された。性教育バッシング、婚活議連誕生と地方行政主導の婚活の増加、夫婦別姓を認めないなど多くのことが世界から大きく遅れた日本の今日をもたらしたとジェンダー平等後退の理由を示した。

自民党政権右派の「性・生殖・家族」への関心とは、その**決定権は男性にあるとし、女性には与えないという恐るべき人権蹂躞思想である**と私は受け止めたのだが・・・。(文責:林 誠子)